

仙北市読書感想文コンクール

『平成26年度仙北市読書感想文コンクール』（仙北市教育委員会主催・角館図書館後援会後援）が行われ、応募総数153点の中から仙北市長賞に島山紗依さん（小中学校の部・西明寺小1年）、手代木咲希さん（高校・一般の部・角館高2年）がそれぞれ選ばれました。2月22日に仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、入賞者に表彰状と記念品が手渡されました。

今年度の審査結果と仙北市長賞受賞作品を紹介します。

仙北市長賞（高校・一般の部）



『私が愛したいもの』

角館高等学校二年 手代木咲希

例えば、身近に八十分しか記憶が持たない人がいるなら、私はなぜ覚えられないのかと怒るかもしれません。それを防ぐために今日起こった出来事を紙に書き、服に

仙北市長賞（小中学校の部）



『まえむきにかんばる人』

西明寺小学校一年 島山紗依

ちゅうちゅうくん、きみは、おもしろい車をひくのがいやだったんだね。じぶん一人ならはやくはしれるとおもったんだね。だから、いやなことからにげ出したってわかったよ。

わたしも、やりたくないことからにげ出したときがあるよ。バレエのからだそらのれんしゅうはとてもきついです。おしりに、グッと力をいれてこしをうかせなくてはいいけません。しっぱいするとあたまをぶつけて、いたいです。わたしは、れんしゅうしなきゃいけないとわかっていたけど、ついついさぼってしまいました。

わたしがなかなかじょうずにならないので、バレエの先生は、「毎日お風呂あがりにれんしゅうしないといけません。」といいました。おかあさんは、「あたまにクッションをしくといいたくないよ。」とアドバイスをくれました。

付けているなら「やめて」と言うかもしれません。もし私がその人の「家政婦」だったら毎日毎日初対面の人として接しなければなりません。たぶん私はそのうち面倒になっていくのだと思います。でも、この本の「私」は何でも数学的に考え、数学を愛している「博士」に毎日毎日数学的な挨拶をします。たった八十分しか記憶が持たない博士は「私」のことを紙に書き、服に付けます。足のサイズから生年月日、数学で会話をする博士にとって数学が博士の言葉で数学が全てなんだと思います。その人の世界は数学でできているの

みんながたくさんはげましてくれてるので、いまは、がんばってれんしゅうしています。すこしずつせいでうするようになってきました。

ちゅうちゅうくん、きみもいろんな人にたすけられていたね。ジムやオーリーがきみをみつつけてくれたとき、きつとうれしかったね。にげて、みんなにめいわくをかけたのに、ジムたちは、きみをさがしてくれたね。みんなちゅうちゅうくんのこと好きなんだね。

わたしも先生やおかあさんにはげましてもらったとき、うれしかったよ。ちゅうちゅうくんのおはなしをよんで、やりたくないことやにげなことも、あきらめずに、つづけるよ。いけなくてわかったよ。

これからも、にげなことがたくさんあるとおもって、にげなことからにげないでがんばりたいです。ちゅうちゅうくんのおかげで、まえむきにかんばる人になれるそうです。ありがとう。

読んだ本

『いたすきかんしゃ ちゅうちゅうくん』

（福音館書店）



かもしれないけど、私の世界は数学だけではありません。ましてや八十分しかない世界で、数学を一番に考えることは、私にはできないと思います。

私にとっての数学は、学校の授業で一番嫌な授業で、教科の中でも一番得意なものでも、なんとも言えない理屈と数式が苦手で、できればやりたくない、そういうものです。どんなに博士が優しくても、どんなに丁寧に教えてくれても、数学を好きにはなれないだろうと最初のページを読んだ時には思っていました。でも博士が家政婦の「私」の息子に教える数学の話を知り、一番嫌いだっただけで、それよりも√の問題が嫌いではなくなりました。「君はルートだ。どんな数学でも嫌がらず自分の中にかくまう寛大な記号のルート。」ルートをそんな風に思う博士の世界はやっぱり数学でできているんだと思ってしまうました。

嫌いな二次関数のグラフよりも、無駄に長い数式よりも、息子をルートだと言う博士の世界の方が難しい気がします。

博士がこの世で最も愛したものは素数で、数学で数字です。そして静かであることを大切にしてきました。それでも博士の記憶は八十分しか持ちません。



その日にあつた泣くほど嬉しいことも泣くほど悔しいこともつらいことも全て八十分しか持たないのです。メモをしたから大丈夫というわけにはいかない。私は思います。思い出として記憶に残すことができないのはどんな気持ちなのでしょう。その考えすらも忘れてしまつたのでしょうか。

「私」の息子が包丁で手を切ったこと、三人で野球観戦に行ったこと…。何もかも全て八十分で忘れてしまつたことを一番理解して一番悲しんでいるのは博士なのかもしれないと、博士がすすり泣きしているところを読んだ思い出しました。記憶というのは自然に忘れるものもあれば決して忘れないものもあるはず。私が八十分しか記憶が持たなかつたらと考えた時に、博士でいう数学のようなものが私にはあるのかと思いました。一日たった八十分で新しいことを覚えても無駄だし、「それしかない」と思えるものも今のところ、ありません。数学を愛せる博士を尊敬します。

息子のルートを大事にし、数学を愛し、静かに問題を解いてたった八十分の記憶をメモする博士を、最初は変だと思っていました。でも、博士には数学し

かなくて、覚えたくても覚えられない悲しみがあつて、「私」と息子が来るまで一人でいたんだと考えると少し切ない感じが今はします。博士は「私」や息子と過ごしていくうちに一分も記憶ができなくなり、最初に症状が現れた一九七五年で止まつて、そこから進めなくなるのです。それでも「私」と息子は博士の元へ行くのを止めませんでした。「私」と息子は記憶がなくてもいるだけでいい、そういう関係になったのではないかと私は思います。博士は忘れてしまつても、私と息子がプレゼントしたカードを肌身離さず持っているから、二人は何年も何十年も会いに行くんだと思えました。記憶が全てではないと学んだ気がします。この先もし、私の記憶がなくなつたり、記憶ができなくなつたりすることがあつたら、その時は博士のように何かに一生懸命取り組めるような人に、取り組める何かを持つていられるような人になっていたいと思います。嫌いな数学を好きにしてくれた博士に感謝です。

読んだ本

『博士が愛した数式』

（新潮文庫）

読書感想文コンクール審査結果（敬称略）

仙北市長賞

島山紗依（西明寺小1年）
手代木咲希（角館高2年）

角館図書館後援会長賞

石郷岡卯月（角館小4年）
大澤ゆき乃（中川小6年）
木元聖（角館中3年）

仙北市教育長賞

高橋俊介（白岩小2年）
大屋敷舟（神代小4年）
三浦嘉夏（角館高2年）

入選 小学校低学年の部

佐藤心（角館小1年）
西宮理央（角館小1年）

入選 小学校中学年の部

細川璃音（神代小3年）
宮本春菜（神代小3年）

入選 小学校高学年の部

佐藤千絢（神代小5年）
西宮奈那（西明寺小6年）

入選 中学校の部

山崎禎久（角館中2年）
佐々木萌子（神代中2年）
橋本琉（角館中3年）

入選 高校・一般の部

草薙奈々（角館高2年）
千葉菜摘（角館高2年）
藤原実咲（角館高2年）

佳作 小学校低学年の部

佐々木祐奈（中川小2年）
高山淳仁（角館小2年）

佳作 小学校中学年の部

門脇時男（西明寺小4年）
辻谷彩果（白岩小4年）

佳作 小学校高学年の部

高橋慶多（西明寺小5年）
蘭藤佳穂（角館小6年）
平岡恵太（神代小6年）

佳作 中学校の部

伊藤和磨（松木内中1年）
加藤祐樹（角館中2年）

佳作 高校・一般の部

白石沙耶芳（角館高2年）
進藤夏希（角館高2年）
能美佳央（角館高2年）

